

えびの市立病院改革プラン
(平成 29 年度～平成 32 年度)

平成 29 年度実施状況の点検・評価

(個 別 表)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

1-1 地域医療構想を踏まえた役割の明確化 [改革プラン6-(2)、6-(3) (P.13)]

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>①地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割</p> <p>えびの市立病院の病床規模については現状を維持しますが、将来の医療需要や患者の動向によっては、病床転換も視野に入れます。</p> <p>また、複数科を有する地域に密着した公立病院として、西諸地域医療・介護連携推進協議会による検討を踏まえ、医療、介護及び福祉並びに関連施設との連携を図り、将来の超高齢化社会に対応できる地域包括システムの構築について、今後検討します。</p> <p>救急医療においては、救急指定医療機関として、24時間365日の救急搬送を受け入れる体制を維持します。災害時医療においては、「災害時における医療救護に関する協定」第3条に規定する「西諸医師会災害医療計画」に基づき、救急指定病院の役割を担います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病床規模については、現状の一般病床50床、5診療科を維持しますが、西諸医療圏における下記西諸地域医療・介護連携推進協議会の今後の動向により、病床の見直しも図ることとします。 ○ 西諸地域医療・介護連携推進協議会において、平成30年4月からの（仮称）在宅医療・介護連携センター設置に向け、西諸医師会内に準備室が設置されました。また、同協議会の下部組織である西諸地域医療介護対策連絡会において、西諸地区における医療機関とケアマネの入退院のルールを取り決めする「入退院調整ルール」の策定に向けて協議・検討がなされました。 ○ 救急医療については、常勤医師4人と週末等宿日直に係る非常勤医師5人体制により、24時間365日の救急受入れを維持しました。平成29年度における診療時間外患者数は、561人で、対前年度15人(2.7%)増となりました。また、平成29年度における救急自動車により収容した患者数は、215人で、対前年度同となりました。 ○ 災害時医療については、非常時に備えて、6月1日に早朝時災害発生想定 of 電話伝達・当院訓練・消火訓練を、10月4日に火災避難訓練を実施し、災害時消火・避難誘導等についても訓練しました。 	5	5	5
<p>平成37年(2025年)における当該病院の具体的な将来像</p> <p>公立病院改革ガイドラインにおいて「地域において提供されることが必要な医療のうち採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することにある。」と示された公立病院の使命と役割を自覚しつつ、多様化する住民ニーズに効率的かつ効果的に応える体制づくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内で唯一の救急告示病院として救急搬送患者及び時間外患者の受け入れを行いました。 ○ 近年の地球環境の変化に伴い、自然災害による大規模な災害も想定されています。そのため、災害時における迅速かつ適切な医療体制を構築するため、国の運営する広域災害救急医療情報システム「EMIS（イーミス）」の運用として、システムへの入力研修へ参加しました。 ○ 高齢化に伴い増加傾向にある脳卒中に対し、宮崎県が運営する急性期脳卒中医療協議会の医療連携病院として、宮崎大学医学部との遠隔診療支援システムについて、運用しています。 	5	5	5

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

1-2 地域医療構想を踏まえた役割の明確化 [改革プラン6-(3)、6-(4) (P.13~P.14)]

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価																								
<p>②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割</p> <p>西諸二次医療圏において、地域包括ケアシステムの構築に向けて協議が進んでいます。今後、将来の広域医療連携を進めるとともに、西諸二次医療圏内である程度完結できる医療を将来にわたり安定して提供できるよう、急性期から一部を回復期医療へ移行し、地域の医療機能に即した医療提供体制の構築が必要となります。</p> <p>えびの市立病院は不採算であっても、地域医療確保の観点から公立病院が担うべき医療の提供や病床機能分化による効率的な医療提供体制の構築を目指すため、患者接遇の徹底を図り、市民から愛される病院運営に取り組めます。</p>	<p>○ 西諸医療圏において、将来不足すると予想されている回復期機能の病床について、当院における現在の急性期機能病床50床のうち8床を、平成31年度に回復期機能病床である地域包括ケア病床へ移行するため、平成28年度に立ち上げた院内プロジェクトチーム(院長他6人で構成)を中心にコンサルタントの支援を受けながら、導入に際して必要となる厚生労働省への医療データ提出及び院内体制の構築について研究しました。</p>	5	5	5																								
<p>③一般会計負担の考え方</p> <p>市立病院は、原則として地方公営企業法において独立採算となっていますが、一部の例外については同法第17条の2（経費の負担の原則）により一般会計が負担することを定めています。</p> <p>えびの市立病院は、独立採算を原則として効率的な経営を行っていますが、総務省より毎年度発出される「地方公営企業繰出金について」（総務副大臣通知）に定められる病院事業に係る「繰出しの基準」に従って、継続的に財政措置を受けています。</p>	<table border="1" data-bbox="770 954 1865 1206"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">H28年度</th> <th colspan="2">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収益勘定繰入(千円)</td> <td>253,787</td> <td>253,365</td> <td>240,125</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>資本勘定繰入(千円)</td> <td>8,741</td> <td>19,456</td> <td>19,277</td> <td>99.1%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>262,528</td> <td>272,821</td> <td>259,402</td> <td>95.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 一般会計繰出基準については、救急医療の確保、不採算地区病院の運営、リハビリテーション医療に係る繰出基準等、繰出基準に基づいて適正な財政措置を受けました。</p>	項目	H28年度		H29年度		実績	計画	実績	達成率	収益勘定繰入(千円)	253,787	253,365	240,125	94.8%	資本勘定繰入(千円)	8,741	19,456	19,277	99.1%	合計	262,528	272,821	259,402	95.1%	5	5	5
項目	H28年度		H29年度																									
	実績	計画	実績	達成率																								
収益勘定繰入(千円)	253,787	253,365	240,125	94.8%																								
資本勘定繰入(千円)	8,741	19,456	19,277	99.1%																								
合計	262,528	272,821	259,402	95.1%																								

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

1-3 地域医療構想を踏まえた役割の明確化 [改革プラン6-(6) (P.15)]

項目及び取組内容	実績及びデータ					自己評価	外部評価	委員会評価																								
<p>④医療機能等指標に係る数値目標</p> <p>1) 医療機能・医療品質に係るもの</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>H28年度</th> <th colspan="3">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>215人</td> <td>237人</td> <td>215人</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>25件</td> <td>32件</td> <td>24件</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>リハビリ件数</td> <td>8,174件</td> <td>8,410件</td> <td>9,463件</td> <td>112.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ リハビリ件数は、リハビリを必要とする患者増によるものです。</p>					項目	H28年度	H29年度			実績	計画	実績	達成率	救急患者数	215人	237人	215人	90.7%	手術件数	25件	32件	24件	75.0%	リハビリ件数	8,174件	8,410件	9,463件	112.5%	5	5	5
項目	H28年度	H29年度																														
	実績	計画	実績	達成率																												
救急患者数	215人	237人	215人	90.7%																												
手術件数	25件	32件	24件	75.0%																												
リハビリ件数	8,174件	8,410件	9,463件	112.5%																												
<p>④医療機能等指標に係る数値目標</p> <p>2) その他</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>H28年度</th> <th colspan="3">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学生実習受入件数</td> <td>2人</td> <td>14人</td> <td>10人</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>人間ドック受入数</td> <td>67件</td> <td>73件</td> <td>61件</td> <td>83.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○医学生実習受入件は、地域医療学臨床実習プログラムにおける新規実習(宮大実施)の受入が見込みより少なかったものです。</p>					項目	H28年度	H29年度			実績	計画	実績	達成率	医学生実習受入件数	2人	14人	10人	71.4%	人間ドック受入数	67件	73件	61件	83.6%	4	4	4					
項目	H28年度	H29年度																														
	実績	計画	実績	達成率																												
医学生実習受入件数	2人	14人	10人	71.4%																												
人間ドック受入数	67件	73件	61件	83.6%																												
<p>⑤住民の理解のための取組</p> <p>かかりつけ医からの紹介受診や在宅復帰に向けての地域包括ケア病棟の導入など地域完結型医療の推進については、地域住民の理解が必要であり、市ホームページや市広報紙等による情報提供に努めます。</p>	<p>○なし（地域包括ケア病床の導入については研究の段階であったため）</p>					1	1	1																								

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-1 経営の効率化 [改革プラン7-(1) (P.16)]

項目及び取組内容	実績及びデータ				自己評価	外部評価	委員会評価	
	項目	H28年度 実績	H29年度 計画	H29年度 実績				H29年度 達成率
①経営指標に係る数値目標 1) 収支改善に係るもの	経常収支比率	99.2 %	88.1 %	95.3 %	108.2 %	5	5	5
	医業収支比率	84.2 %	74.7 %	81.3 %	108.8 %			
	修正医業収支比率	71.1 %	63.7 %	68.9 %	108.2 %			
	経常収支比率 = (経常収益 ÷ 経常費用) × 100 医業収支比率 = (医業収益 ÷ 医業費用) × 100 修正医業収支比率 = { (医業収益 - 一般会計負担金) ÷ 医業費用 } × 100							
○ 全項目ともに、平成28年度に一般会計負担金等繰出基準の見直しを行ったことなどにより、計画より医業収益が増加し比率が好転したものです。								
①経営指標に係る数値目標 2) 経費削減に係るもの	給与費対医業収益比率	56.6 %	59.2 %	58.3 %	101.5 %	5	5	5
	材料費対医業収益比率	31.5 %	37.8 %	31.3 %	117.2 %			
	後発医薬品の使用割合	2.8 %	3.4 %	3.9 %	114.7 %			
	給与費対医業収益比率 = (職員給与費 ÷ 医業収益) × 100 材料費対医業収益比率 = (材料費 ÷ 医業収益) × 100 後発医薬品の使用割合 = { 後発医薬品数量 ÷ (後発医薬品のある先発医薬品数量 + 後発医薬品数量) } × 100							
○ 「給与費対医業収益比率」、「材料費対医業収益比率」は、平成28年度に一般会計負担金等繰出基準の見直しを行ったことなどにより、計画より医業収益が増加し比率が好転したものです。								

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-2 経営の効率化 [改革プラン7-(1) (P.16)]

項目及び取組内容	実績及びデータ				自己評価	外部評価	委員会評価																										
<p>①経営指標に係る数値目標</p> <p>3) 収入確保に係るもの</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>H28年度</th> <th colspan="3">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>68.4 %</td> <td>69.5 %</td> <td>63.9 %</td> <td>91.9 %</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>31.3 日</td> <td>27.5 日</td> <td>26.7 日</td> <td>102.9 %</td> </tr> <tr> <td>1日当たり入院患者数</td> <td>33 人</td> <td>35 人</td> <td>31 人</td> <td>88.6 %</td> </tr> <tr> <td>1日当たり外来患者数</td> <td>108 人</td> <td>109 人</td> <td>99 人</td> <td>90.8 %</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28年度	H29年度			実績	計画	実績	達成率	病床利用率	68.4 %	69.5 %	63.9 %	91.9 %	平均在院日数	31.3 日	27.5 日	26.7 日	102.9 %	1日当たり入院患者数	33 人	35 人	31 人	88.6 %	1日当たり外来患者数	108 人	109 人	99 人	90.8 %	4	4	4
項目	H28年度		H29年度																														
	実績	計画	実績	達成率																													
病床利用率	68.4 %	69.5 %	63.9 %	91.9 %																													
平均在院日数	31.3 日	27.5 日	26.7 日	102.9 %																													
1日当たり入院患者数	33 人	35 人	31 人	88.6 %																													
1日当たり外来患者数	108 人	109 人	99 人	90.8 %																													
<p>病床利用率={入院延べ患者数÷(病床数×稼働日数)}×100 平均在院日数=入院延べ患者数÷{(入院件数+退院件数)÷2} 1日当たり入院患者数=年延べ入院患者数÷入院診療日数 1日当たり外来患者数=年延べ外来患者数÷外来診療日数</p> <p>○ 「病床利用率」、「1日当たり入院患者数」の減少については、入院患者数の計画では12,045人を予定していましたが、実績が11,244人となったものです。</p> <p>○ 「1日当たり外来患者数」の減少については、計画では26,596人を予定していましたが、実績では24,179人となったものですが、全国的に外来患者数は、減少しています。</p> <p>○ 「平均在院日数」は減少しましたが、治療に長期間を要する高齢者で一人暮らしや在宅復帰困難な入院患者数が依然として多い状況です。</p>																																	
<p>①経営指標に係る数値目標</p> <p>4) 経営の安定性に係るもの</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>H28年度</th> <th colspan="3">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師数</td> <td>4 人</td> <td>5 人</td> <td>4 人</td> <td>80.0 %</td> </tr> <tr> <td>累積欠損金比率</td> <td>75.9 %</td> <td>103.3 %</td> <td>85.2%</td> <td>117.5 %</td> </tr> </tbody> </table>	項目	H28年度	H29年度			実績	計画	実績	達成率	医師数	4 人	5 人	4 人	80.0 %	累積欠損金比率	75.9 %	103.3 %	85.2%	117.5 %	4	4	4										
項目	H28年度		H29年度																														
	実績	計画	実績	達成率																													
医師数	4 人	5 人	4 人	80.0 %																													
累積欠損金比率	75.9 %	103.3 %	85.2%	117.5 %																													
<p>累積欠損金比率={累積欠損金÷(医業収益-受託工事収益)}×100</p> <p>○ 「累積欠損金比率」は、平成28年度に一般会計負担金等繰出基準の見直しを行ったことなどにより、計画より医業収益が増加し比率が好転したものです。</p>																																	

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-3 経営の効率化 (3) 目標達成に向けた具体的な取組 [改革プラン7-(3) (P.17)]

項目及び取組内容	実績及びデータ			自己評価	外部評価	委員会評価									
<p>①民間的経営手法の導入</p>	<table border="1" data-bbox="969 352 1686 539"> <thead> <tr> <th data-bbox="969 352 1308 453">項目</th> <th data-bbox="1308 352 1498 405">H29年度 計 画</th> <th data-bbox="1498 352 1686 405">H29年度 実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="969 453 1308 539">地方公営企業法 全部適用</td> <td data-bbox="1308 453 1498 539">検討</td> <td data-bbox="1498 453 1686 539">—</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="813 587 1279 619">○29年度は検討に至りませんでした。</p>			項目	H29年度 計 画	H29年度 実 績	地方公営企業法 全部適用	検討	—	1	1	1			
項目	H29年度 計 画	H29年度 実 績													
地方公営企業法 全部適用	検討	—													
<p>②事業規模・事業形態の見直し</p>	<table border="1" data-bbox="969 738 1686 941"> <thead> <tr> <th data-bbox="969 738 1308 839">項目</th> <th data-bbox="1308 738 1498 791">H29年度 計 画</th> <th data-bbox="1498 738 1686 791">H29年度 実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="969 839 1308 892">13対1看護基本料</td> <td data-bbox="1308 839 1498 892">検討</td> <td data-bbox="1498 839 1686 892">検討</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 892 1308 941">病床機能転換</td> <td data-bbox="1308 892 1498 941">検討</td> <td data-bbox="1498 892 1686 941">検討</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="799 983 1861 1086">○13対1看護基本料の導入については、施設基準である平均在院日数24日以内を満たす必要がありますが、29年度の平均在院日数は26.7日となりました。引き続き平均在院日数24日以内を目標とした入退院調整が必要です。</p> <p data-bbox="799 1128 1861 1198">○病床機能転換については、急性期病床50床のうち最大8床を回復期病床へ転換する地域包括ケア病床の導入について研究を行いました。</p>			項目	H29年度 計 画	H29年度 実 績	13対1看護基本料	検討	検討	病床機能転換	検討	検討	5	5	5
項目	H29年度 計 画	H29年度 実 績													
13対1看護基本料	検討	検討													
病床機能転換	検討	検討													

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-4 経営の効率化 (3) 目標達成に向けた具体的な取組 [改革プラン7-(3) (P.17~P.18)]

項目及び取組内容	実績及びデータ				自己評価	外部評価	委員会評価
<p>③経費削減・抑制対策 ア 薬品費・診療材料費の適正管理</p> <p>薬品及び診療材料については、使用実態の把握に努めるとともに、適正な定数設定による過剰在庫の削減を図ります。</p> <p>他の医療機関の状況や市場動向について十分な情報収集を行い購入単価の引き下げに努めます。</p>	項目	H28年度	H29年度	増減	5	5	5
	貯蔵品:薬品(円)	9,661,929	11,213,163	1,551,234			
	薬品払出額(円)	199,071,915	189,244,960	△9,826,955			
	薬品たな卸回転率(回)	18.4	18.1	△0.3			
	薬品回転期間(日)	19.8	20.2	0.4			
	貯蔵品:診療材料(円)	2,211,967	2,189,484	△22,483			
	診療材料払出額(円)	16,811,220	15,511,185	△1,300,035			
	材料たな卸回転率(回)	7.6	7.0	△0.6			
	診療材料回転期間(日)	48.0	52.0	4.0			
	<p>たな卸回転率=払出額÷たな卸資産合計〔(前年度末残高+当年度末残高)÷2〕 …たな卸資産回転率が高いほど、在庫量が少ないことを意味し、在庫が効率よく収益に結びついている。 回転期間=365日÷たな卸資産回転率 …回転期間は、在庫量が1日の収益の何倍あるかを表し、短い方が、在庫資産は少なく、資金効率が良好。</p> <p>○ 薬品は、年度当初に5者による単価見積合わせを行ったうえで購入単価を契約しています。平成29年度においては、患者数減少の影響もあり、薬品払出額は減少しましたが、高額な注射を要する患者の見込減により貯蔵品が増加しました。</p> <p>○ 不動薬品については、概ね3~6か月ごとに見直しを行い、返品又は交換を行うことで期限切れによる廃棄処分を少なくするよう努めています。</p> <p>○ 診療材料は、年度当初に10者による単価見積合わせを行ったうえで購入単価を契約しています。平成29年度においては、酸素療法及び人工呼吸器等を使用する患者が少なかったこと等から診療材料払出額は減少しました。</p>						

(評価: 5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

項目及び取組内容	実績及びデータ				自己評価	外部評価	委員会評価																			
<p>③経費削減・抑制対策 イ 後発医薬品の採用拡大</p> <p>薬品費の削減を図るため、安価な後発医薬品への採用切替えを積極的に進め、併せて医薬品費の削減に努めます。</p>	<table border="1" data-bbox="768 272 1861 475"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">H28年度</th> <th colspan="2">H29年度</th> </tr> <tr> <th>品数</th> <th>使用割合</th> <th>品数</th> <th>使用割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用医薬品数</td> <td>640</td> <td></td> <td>634</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うち後発医薬品数</td> <td>18</td> <td>2.8 %</td> <td>25</td> <td>3.9 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 後発医薬品数への採用切替えに関する検討については、平成29年度実施できませんでした。</p> <p>○ 現在採用中の後発医薬品のほとんどは、先発医薬品のない薬品（薬価が安くなったため製造を中止した等）です。今後は、使用データの多い信用できる後発医薬品メーカーを中心に安価な医薬品への切替えを検討しますが、医師の理解と電子カルテの導入が必要です。</p>				項目	H28年度		H29年度		品数	使用割合	品数	使用割合	採用医薬品数	640		634		うち後発医薬品数	18	2.8 %	25	3.9 %	1	1	1
項目	H28年度		H29年度																							
	品数	使用割合	品数	使用割合																						
採用医薬品数	640		634																							
うち後発医薬品数	18	2.8 %	25	3.9 %																						
<p>③経費削減・抑制対策 ウ 医療機器等の計画的な購入</p> <p>施設及び設備の現状把握に努め、年次的な部品交換を図りつつ、建設改良費の中期計画により年度負担の平準化を図ります。</p>	<table border="1" data-bbox="768 772 1861 975"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>H28年度</th> <th colspan="3">H29年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>計画</th> <th>実績</th> <th>執行率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>器械備品(千円)</td> <td>16,786</td> <td>20,000</td> <td>28,592</td> <td>143.0 %</td> </tr> <tr> <td>施設整備(千円)</td> <td>0</td> <td>18,090</td> <td>18,241</td> <td>100.8 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 予算作成時には、平成28年度に策定した建設改良費に関する6カ年計画を基に院内協議を重ね計画的な医療機器の購入に努めています。</p> <p>○ 平成29年度末において、医療機器等のうち215台（約73%）が耐用年数を経過しています。建設改良費に関する6カ年計画の更新予定となっていない器械備品においても当該部品等の在庫が無く修理不能となる不測の事態に陥る可能性があります。29年度は、内視鏡システムに不具合が生じたため計画値を大幅に上回りました。</p> <p>○ 施設整備は、エレベーターリニューアル工事と外来棟空調取替工事を実施しました。</p>				項目	H28年度	H29年度			実績	計画	実績	執行率	器械備品(千円)	16,786	20,000	28,592	143.0 %	施設整備(千円)	0	18,090	18,241	100.8 %	5	5	5
項目	H28年度	H29年度																								
	実績	計画	実績	執行率																						
器械備品(千円)	16,786	20,000	28,592	143.0 %																						
施設整備(千円)	0	18,090	18,241	100.8 %																						

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>③経費削減・抑制対策 エ LED化の推奨</p> <p>電気設備機器の更新に当たっては、省エネ法に基づくLED機器の採用を推奨し、経費の削減に努めます。</p>	<p>○ 経年劣化に伴う照明器具修繕の際には、LED機器への変更を推奨しています。平成29年度においては、外来診療棟の避難誘導灯と全館における防災照明(非常灯)1灯をLED機器へ変更しました。</p> <p>○ 電気料については、平成28年度が7,516,779円、平成29年度が7,996,470円で昨年比479,691円の増加となりました。入院患者の高齢化に伴い冷暖房費の増加によるものが主な要因です。</p>	5	5	5

(評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施)

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-5 経営の効率化 (3) 目標達成に向けた具体的な取組 [改革プラン7-(3) (P.18)]

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>④収益増大・増加対策 ア 看護体制の充実</p> <p>13対1看護基準を導入し、入院患者に対し手厚い看護を行うとともに入院基本料に係る診療報酬の増収を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一般病棟における看護職員数は、正規看護師18人（育児休業中1人除く。）、臨時看護師2人、臨時准看護師4人、嘱託看護師1人、嘱託介護福祉士2人で、15対1看護を実施しています。 ○ 上記看護体制の看護職員配置数は、13対1入院基本料の施設基準を満たしているものの、同じく当該入院基本料の要件である「入院患者の平均在院日数24日以内」を満たしていないため、当院では現在15対1入院基本料を適用しています。15対1から13対1へ入院基本料が移行すると、点数が960点から1,121点になり、年間1,900万円の増収が見込まれるため、平均在院日数が24日以内となるような入院患者の退院調整が必要です。なお、この平均在院日数については、地域包括ケア病床の導入により入院日数の削減につなげられるよう現在研究中です。 	4	4	4
<p>④収益増大・増加対策 イ 適正な在院日数の調整</p> <p>在院日数は、収益構造の一要因となっており、在院日数の短縮は経営的に有効な取組みとなりますので、適正な在院日数の調整を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 15対1入院基本料の施設基準である平均在院日数は、60日以内となっています。平成29年度における平均在院日数は、26.7となり、計画値27.5日を下回りました。 ○ 平成29年度における平均在院日数延長の理由は、医学的な理由による60日超えの入院と、「介護施設・福祉施設の入所待ち」や「介護サービス認定待ち」等の理由により退院予定が決まらず入院継続となったことによるものです。 ○ 入院患者の状況をみると、入院前の場所は、約8割が「家庭からの入院」で最も多く、「他病院、診療所からの転院」、「介護施設・福祉施設からの入院」等となっています。退院先の場所は、「家庭へ退院」が7割弱で最も多く、「他の病院、診療所へ転院」、「終了（死亡退院等）」、「社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所」等の順となっています。退院へ向けた課題をみると「低下した機能の回復」、「在宅医療・介護等の調整」、「入所先の施設の確保」が多く、診療圏域内の医療機関及び介護・福祉施設との連携について、相談室を窓口とした情報共有を図り入退院調整に努める必要があります。 	4	4	4

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>④収益増大・増加対策 ウ 検診及び人間ドック等の増加</p> <p>一般健診、人間ドック等の各種健診業務を効率的に運用し、受診者の増加を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度における国保・人間ドック受入数は、61件となり、計画値67件を下回りました。その他、特定健診及び長寿健診受入数等健診受入れ数は、558件で昨年比65件増となりました。 ○ 健診は、生活習慣病の早期発見に役立ち、重症化や合併症による生活機能低下を防ぎ、医療費の伸びを抑える重要な役割を持っており、医療機関は、有病者への保健指導の充実強化を図るための保健サービスを推進する必要があるため、平成29年度から保健指導（生活習慣の改善を促す支援）を導入しています。 	5	5	4
<p>④収益増大・増加対策 エ 未収金発生の未然防止と早期回収の強化</p> <p>患者家族への高額療養費制度や各種福祉制度による負担軽減の説明を早期に行い、相談しやすい環境の構築や支払確約書の取り交わしなど、未収金を発生させない取り組みを徹底します。</p> <p>未収金については、定期的な書面による納付督促に加え、職員による訪問徴収を実施し、収納率の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 治療費が未収金とならないよう、早い段階での収納連絡等に努めています。また、入院費全額を一括して支払うことが困難な方は、誓約書の提出を促し、分納にも応じるなど柔軟に対応しています。 ○ 入院患者については、入院日において病棟クラークが患者家族への高額療養費制度等の説明を行い、入院誓約書の早期提出も促しています。その際には、民法上の規定によると、保証人・連帯保証人のどちらも、主たる債務者が債務履行しない時にはその履行する責任を負う義務があることを患者家族へも説明することとしています。 ○ 未収金を個別管理できるよう「未収金管理シート」を作成し、未収金発生時期・納入の状況等を詳細に記録しています。 ○ 過年度分については、請求・督促・催告を継続して行うとともに、臨戸訪問にも取り組みました。また、訪問時に不在の場合は、不在連絡票又は差置書を投函しています。 ○ 救急搬送患者や生活保護受給者は保証人なしでも対応しているため、死亡した場合には、治療費や死亡後の処置料が未納となる場合が多く、その後の請求も困難となっています。 	5	5	5
<p>④収益増大・増加対策 オ 各種手数料等の改定</p> <p>適正な受益者負担に基づく文書料等保険外各種手数料の改定を行い、増収を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年3月に「えびの市立病院使用料及び手数料条例」の改正を行い、文書料等保険外負担金を改定しました。29年度は20万円程度の増収となりました。 	5	5	5

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

2-6 経営の効率化 (3) 目標達成に向けた具体的な取組 [改革プラン7-(3) (P.19)]

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>⑤医療提供体制の確保と質の向上 ア 医師の確保</p> <p>医師を確保し診療体制の充実を図ることは、地域の医療水準を高めるとともに病院経営においても最も重要な要素です。引き続き、大学医学部講座に対する常勤派遣医の要望活動や県の医師確保対策推進協議会でのPRに加え、新たにインターネットによる医師募集事業により、早期の医師確保を図り、安定した診療及び救急医療体制の構築に努めます。</p>	<p>○ 4月10日に宮崎大学、5月2日に鹿児島大学へ市長・院長等が出向いて常勤派遣医師等の要望活動を継続しています。各医局在籍医師の減少もあり、新規確保が困難な状況は続いていますので、医師の新規採用はかないませんでした。29年度においても引き続き常勤医師4名、非常勤医師1名の診療体制となりました。</p> <p>○ 5月23日に宮崎県医師確保対策推進協議会総会へ出席し、県内病院の医師確保対策に係る情報共有を図り、同協議会の無料職業紹介事業には積極的に応募しました。また、有料職業紹介事業を同協議会で取り組むよう県へ要望活動を行った結果、実施することになりましたので、今後は更に広範囲での募集が可能となりました。</p> <p>○ 宿日直等非常勤医師は大学からの派遣等5人を確保しました。常勤医師の宿日直業務の負担軽減につながりました。</p>	5	5	5
<p>⑤医療提供体制の確保と質の向上 イ 職員の資質向上</p> <p>医療技術や知識の習得に必要となる研修・研究の機会を充実し、各種資格取得を図り、職員のスキルアップを支援します。</p>	<p>○ 医師、医療技術員及び看護師等の知識や技術向上のため、学会や研修会等へ計画的に派遣しました。また、29年度は、宮崎県看護協会との連携により大規模災害時に災害の規模に応じて必要とされる災害支援ナースの研修に看護師を派遣しました。</p> <p>①医師の継続研修 ・院外研修 短期研修（4項目の研修を延べ11名受講）</p> <p>②看護師の継続研修 ・院外研修 長期研修（ファーストレベル教育課程研修会1名/31日間受講） ・院外研修 短期研修（16項目の研修を延べ63名受講）</p> <p>③その他医療職員の継続研修 ・院外研修 短期研修（6項目の研修を延べ7名受講）</p> <p>④事務職員の継続研修 ・院外研修 短期研修（2項目の研修を延べ4名受講）</p> <p>○ 院内勉強会は、各所属持ち回りによる事例検討会等を年間11回開催し、延べ参加人数は、255人（うち看護師137人）でした。また、外部講師による接遇研修を開催しました。</p>	5	5	5

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）

新えびの市立病院新改革プラン 平成29年度の実施状況の点検・評価（個別表）

項目及び取組内容	実績及びデータ	自己評価	外部評価	委員会評価
<p>⑤医療提供体制の確保と質の向上 ウ 学生実習体制の充実</p> <p>医学生や看護学生の実習受け入れ病院として、研修プログラムの充実や指導體制の整備を図り、医学生等の積極的な受け入れと育成・定着に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学生の実習については、地域医療学臨床実習として、宮崎大学生4年生5人、5年生4人と6年生1人の合計10人を延べ48日間受け入れました。 ○ 看護学生等の実習については、実人員40人、延べ298人を受け入れました。 <ul style="list-style-type: none"> ・小林准看護学校 基礎Ⅱ実習 4人 (4/7～4/21) ・小林准看護学校 基礎Ⅲ実習 4人 (5/8～5/26) ・小林看護医療専門学校 3年生基礎Ⅲ 5人 (5/29～6/15) ・小林看護医療専門学校 2年生基礎Ⅱ 5人 (7/10～7/27) ・小林看護医療専門学校 1年生基礎Ⅰ-1 4人 (8/1～8/2) ・小林准看護学校 慢性期実習 4人 (9/11～9/29) ・小林看護医療専門学校 1年生基礎Ⅰ-2 4人 (11/6～11/9) ○ 平成29年度は、小林看護医療専門学校において2年生を対象とした災害看護の授業の講師として看護師を1名派遣しました。期間：9月～10月の毎週木曜日 ○ 看護師による「ふれあい看護体験」は、継続して実施しています。平成29年度においては、7月28日に車椅子乗車、手術衣着用等の体験プログラムを計画し、飯野高校生4人を受け入れました。 	5	5	5

（評価：5 取組は概ね良好、計画どおり実施、4 取組内容の効率化や手段見直し等を行い、継続、3 取組の一部遅延、2 取組の一部未実施、1 取組が未だ未着手・未実施）